



平成30年度 学校だより

緑 柏

長崎県立佐世保南高等学校

No.162 平成30年12月21日発行

発行責任者 下釜 祐保

校長室の窓から

冬至を境に

校長 下釜 祐保



冬至が明日に迫った。太陽は最も南にかたより、北半球では一年中で昼が最も短く、夜が最も長くなる。地球は、北極点と南極点を結ぶ「地軸」が公転軌道の面に対して約23.4度傾いているらしい。この地軸の傾きによって、日中の時間の長短がおき、太陽の周りの公転と重なって長短が変化し、日本の四季にもなっている。

この傾きが生じた原因が解明されているのかどうかは知らないが、もしこの傾きがなければ、或いは傾きの角度が少しずれていたら、地球上の生命体系は変わっていたであろう。スケールの大きな神秘と偶然の中で我々は生かされていることを思うと、今ここに生きていることの不思議と幸運を感じずにはいられない。

「師走」という呼称にはまだ時間的余裕が感じられるが、「年の暮れ」「年の瀬」「歳末」「数え日」などの表現を使うようになると、急に押し詰まった感がある。本日の全校集会、明日の冬至を境に、今年も後者の言葉が多くなる。そして、正月になると、二十四節気でいう「小寒」「大寒」へと季節は移る。今年の冬の始まりは暖かい日の連続であったが、次第に寒さも本格化するであろう。

この季節の寒さの中で、この地球上の万物が、草木も動物たちも来るべき春に備えてじっと力を蓄えている。私の好きな言葉に「稲は酷暑の夏を、麦は厳寒の冬を越さねば実を結ばない」がある。ワカメなどの海草類は寒の厳しい年ほど質がいいらしい。

この自然界の摂理は、人間も例外ではないであろう。我々人間にとって豊かに実るに必要な暑や寒とは何であろうか。一言で言えば「自分の思うようにならないこと」かも知れない。思うようにならないことに出くわしたら、逃げずに、自分を磨く好機ととらえ、その糧とすることである。数年前に、東北地方は岩手県に知己を尋ねたことがある。東北の冬は長く、春の光をじっと待ち続ける生活が長いと聞いた。九州育ちの我々より、春を待ち望む期待、春の暖かさに対する喜びは大きいに違いない。女子マラソンで有名な高橋尚子さんは、「何も咲かない寒い日は、下へ下へと根を伸ばせ。やがて大きな花が咲く」が座右の銘らしい。冬の寒さは、人の「根」をも育てている。つらく厳しい季節ではあるが、運動部にとっては黙々と走って足腰を鍛える時期であり、大学受験を控えた受験生もまさに正念場だ。

明日の冬至を境に、太陽の力がすこしずつ強まり、陽の力が増していく。これもまた、自然である。歓喜溢れる春の日を思いつつ、どうぞよいお年を。

○「後期生徒総会」

11月7日(水)に、後期生徒総会が行われました。今回の総会では、第1号議案(後期生徒会活動方針案)、第2号議案(各クラスから提出された学校生活における意見・要望)に対する審議がおこなわれ、2つの議案は承認されました。

今回の総会を受けて変わることは、これまで手洗い場に置かれていた石鹸が、感染症の予防という観点から、泡石鹸へと変更になりました。また、「トイレにスリッパを置いて欲しい」という要望が数年前から出ているということもあり、今回全校生徒に対してアンケートを実施しました。その他にも生徒から多くの意見・要望が出され、学校生活・学校施設について生徒が建設的な考えを持っていることがわかりました。

最後に、学校生活をよりよくするために、生徒自身が中心となり、生徒総会がさらなる議論の場となるような工夫を考え、南高の躍進を期待したいと思います。



○「第2回校内美化コンクール」の実施

11月5日(月)～11月9日(金)の5日間で実施し、1、2年生の「教室・廊下ロッカー」、および「トイレ」を評価の対象に設定しました。特に、トイレ掃除に関してはブラシかけを意識して清掃活動を行いました。このように、積極的な取り組みが見られた5日間でした。今後も日頃の清掃活動を真剣に取り組み、学習に取り組みやすい環境にしていきたいと思います。

【教室部門】

総合優勝・2学年優勝 2年1組
総合2位・2学年2位 2年6組
1学年優勝 1年4組
1学年2位 1年2組

【トイレ後館部門】

男子 優勝 2年4組
女子 優勝 1年6組・2年5組

【トイレ前館部門】

男子 優勝 2年2組
女子 優勝 1年4組

○ 70周年記念事業ワゴン納車式

創立70周年記念事業の一環として、実行委員会から「10人乗りワゴン車」一台を贈呈していただきました。11月14日(水)に、実行委員会の内海委員長さん立会いのもと納車式が行われました。生徒を代表して常任委員長の高井君が謝辞を述べました。

今後は部活動や様々な教育活動の場面で有効に活用させていただきたいと思えます。この車は本校70周年を機に寄せられた多くの方々の寄付によるものです。改めて本校の教育活動へのご理解とご支援に感謝申し上げます。



○ 人権学習

11月15日(木)に人権学習を実施しました。11月11日(日)～12月10日(月)は長崎県人権・同和問題啓発強調月間となっています。本校では「ちがいを認めあう」というテーマのもとに、ワークショップ形式で、様々な人権課題について学習をしました。主なテーマは、同和問題についてでしたが、生徒たちは、活発に意見を出し合い、「ちがいを認めあうこと」の大切さや、差別解消に対して自分たちができることについて、考えを深めました。

○ スクールカウンセラー講話

11月13日（水）に今年度2回目のスクールカウンセラー講話が行われました。講師の先生は、船津愛先生です。今回は5校時に3年生、6校時に1・2年生と分けて講演が行われました。

3年生は、「集中力の作り方 ～がんばれ受験生～」というテーマで、受験へのストレスが増してくる中であっても規則正しい生活習慣を続け、受験に向けての集中力を高められるように、という観点で講話をしていただきました。

1・2年生は、「エンジョイ！ハイスクールライフ ～グループワークを通して～」というテーマで講話をしていただきました。日本の教育現場における高い競争意識やネット社会の普及、対人関係の希薄さ等によって様々なストレスを抱え、自分では対処できない場面が増えています。心の健康を保つことを目的としたグループワークを行いました。普段、会話をしない者同士が気軽に雑談し、お互いの良さを伝え合うことでストレスを緩和し、仲間意識を高められることを体験しました。改めてコミュニケーションに努めていくことの大切さを話されました。



○ 長崎県高等学校総合文化祭（しおかぜ祭）

平成30年11月16日（金）から18日（日）の3日間、長崎ブリックホール大ホールにて、平成最後のしおかぜ祭が開催されました。今年度の総文祭のテーマは「結」（ゆう）です。

初日に開催された総合開会式の加盟校紹介では、常任委員長の高井伶遠君（2年）が、佐世保南高校の全員で団結する様子を俳句形式にした「若人の エールよ 響け 学舎に」を発表しました。これは、テーマの「結」にそって、本校の特徴の一つである応援団のエールによって、南高が一つに結ばれる瞬間を表現したものです。

また、専門部活動紹介では、邦楽部の北野有梨さん（1年）が代表して、日本音楽専門部の活動を紹介しました。それから、専門部発表ステージが行われた後、最後のグランドフィナーレでは、今回の生徒実行委員長から、次年度の担当である県北地区を代表して、高井君が高文連旗を受け取り、次年度のしおかぜ祭への第一歩を踏み出しました。

一方、総合開会式と同時に弁論専門部の弁論大会も開催され、本校からは、代表として内山知美さん（2年）が出場しました。タイトルは「模索する『道徳』といじめ」で、熱い思いを堂々と発表しました。

二日目の17日（土）に開催された日本音楽部門には、本校の邦楽部の2年生7名が出場し、熱演を披露しました。結果は金賞を受賞したものの、全国の切符を手にすることはできませんでした。



○ 1学年 九州大学訪問

12月6日（木）、1学年は進路学習の一環として九州大学を訪問しました。最初に、大学の先生方による模擬講義を受講しました。文系選択者は「第2言語習得」をテーマとした講義で、英語学習方法についてたくさんのアドバイスをいただき、生徒達は熱心にメモを取っていました。理系選択者は「水素エネルギー」についての講義を受講しました。生徒たちにとって初めて学ぶ内容で受講前は「何だか難しそう」「理解できるか不安」という声が多く聞こえてきましたが、非常に丁寧な説明をしていただき、「とてもわかりやすかった」「知らないことを深く学べて、とてもよかった」と喜んでいました。

自由散策時間では、Mission Possible という活動を行いました。これは事前にグループで考えた質問を大学生に、答えてもらうというものです。生徒達は積極的に大学生に話しかけ、「何を専門に学んでいますか」「どんな講義を受講していますか」など、多くの質問をしていました。なかには留学生に質問をしたグループもあり、英語を駆使して一生懸命コミュニケーションを取ろうとしていました。

今回の訪問を通して、多くの生徒達が大学がどのようなところかを五感を通して学び、学習に対するモチベーションを高めることができました。



○ 2学年 修学旅行

1月4日（火）から3泊4日の日程で、福島県・東京都を目的地に2学年の修学旅行がおこなわれました。初日、宿泊先のスパリゾート・ハワイアンズ（いわき市）ではフラガールの指導によるフラの体験学習がおこなわれました。全員がアロハシャツ姿。ゆったりと流れたこの時間は、旅の緊張を癒やしてくれるひとときでした。アロハ姿の旅行団は、夜のフラガール・ファイヤーショーを鑑賞しました。

2日目は震災学習。地域防災センター・復興商店街を中心に巡るコースと、いわき市小名浜地区・アクアマリンふくしま（水族館）を巡るコースの2つに分かれ、それぞれに地元の語り部の方が帯同し、震災発生時からこれまでの道のりについて説明を受けました。その後は、福島第一原発事故の収束拠点となっていた日本サッカーのナショナルトレーニングセンター・J-ヴィレッジで合流し、営業再開に至るまでの経緯について学びました。

11面の緑鮮やかな天然芝ピッチに、全天候型の屋内競技場、ホテル等を付設した施設は圧巻でした。

午後からは、平成25年度から交流を続けている福島県立いわき総合高校との交流会。歓迎の演出の中で迎えられた旅行団は、その後のグループ別交流、福島・長崎お国自慢クイズ大会などで打ち解けたひとときを過ごし、閉式にあたっては南高の学校紹介ビデオを上映、激励の横断幕を寄贈しました。

3日目の朝からは楽しみにしていた東京都内自主研修。ラッシュアワーの混雑にもめげず、それぞれの班が事前に計画した研修コースに従い、小雨降る首都東京の散策に出かけました。大きなトラブルも時間の超過もなく（幸い大雨にも遭わず）、全員が集合場所の東京ディズニーランドに到着しました。

最終日は、国内外からの観光客で連日賑わう東京の下町・浅草に出かけ、浅草寺境内で仲見世商店街で、しばし江戸の情緒に浸りました。いよいよ旅行も最終段階。昼食会場では東京柏葉会の諸先輩方から激励のお言葉を頂戴しました。

短い日程の中に、学びの要素がさまざまに詰まった意義ある修学旅行でした。企画の段階からご理解とご協力を賜りました保護者の皆様方に感謝を申し上げます。



○ 三者面談

冬季休業前までに（一部冬季休業期間も実施）全学年三者面談を実施しました。お忙しい中にお時間を作っていただき、保護者の皆様のご協力に感謝いたします。

○ 平成31年度大学入試センター試験

平成31年度大学入試センター試験は、1月19日（土）、20日（日）の2日間の日程で行われます。大学入試センターの発表によると、今年度の志願者数は576,829人と、前年度より5,842人減少するようです。前年度まで右肩上がりに増加してきた志願者数がやや落ち着いた印象ですが、それでもここ10年間で2番目に多い数となります。一方で、今年度センター試験を利用する大学・短期大学数は852校となり、こちらは前年度より4校増加し過去最大となっています。このように、大学進学においてセンター試験が重要な意味を持つ試験であることは間違いありません。本校からは、長崎国際大学を会場に、194人がセンター試験に挑みます。大学入試の可否は、多くの場合、各大学の個別試験と併せて決められることになるため、センター試験は決してゴールではありませんが、これまでの努力の成果を発揮し、生徒一人ひとりが納得のいく結果を出せるよう支援していきたいと思います。各ご家庭におかれましても、お子様を見守っていただきながら、激励していただきますようお願いいたします。

期日	教科・科目	試験時間
平成31年 1月19日 (土)	地歴・公民	2科目受験 9:30~11:40
		1科目受験 10:40~11:40
	国語	13:00~14:00
	外国語（英語）	筆記 15:10~16:30
リスニング 17:10~18:10		
平成31年 1月20日 (日)	理科①（理科基礎）	9:30~10:30
	数学①（数学ⅠA）	11:20~12:20
	数学②（数学ⅡB）	13:40~14:40
	理科②	2科目受験 15:30~17:40

